

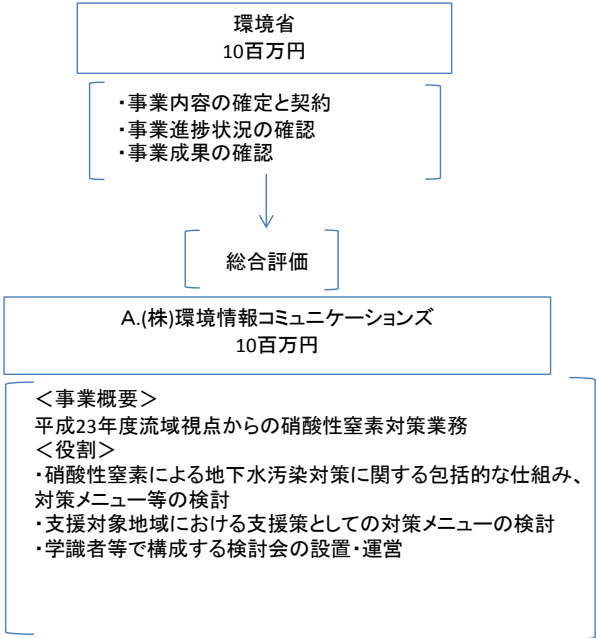
平成24年行政事業レビューシート

(環境省)

事業名	流域視点からの硝酸性窒素対策推進費	担当部局庁	水・大気環境局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度～平成25年度	担当課室	土壌環境課 地下水・地盤環境室	室長 宇仁菅 伸介				
会計区分	一般会計	施策名	3-3 水環境の保全（海洋環境の保全を含む）					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	環境基本法第16条 地下水の水質汚濁に係る環境基準について(平成9年環境庁告示第10号)	関係する計画、通知等	環境基本計画 第2部第4章第1節					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	地下水においては、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の環境基準超過率が高く、一層の対策が必要であるが、汚染が広範囲で、原因も多岐(施肥、家畜排せつ物、生活排水等)にわたることから、汚濁機構を解明し、より効果的な技術的手法を明らかにするとともに、農業・畜産関係者を含めた地域による包括的な取り組み制度を構築することにより、環境基準の達成に資することを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	汚染の原因ごとに実施容易性等も考慮した対策と、昨年度選定した支援対象地域に対する具体的な対策を検討する。硝酸性窒素対策については、重点的に対策を講ずべき地域を選択し、資金・技術等を集中させ、地域一体となって対策を推進する包括的な仕組みの構築が有効であると考えられるため、他法令、国外での地域指定制度などの情報について収集、整理、調査等を行う。また、有識者等による検討会を開催し、農業・畜産関係者に対するインセンティブの付与を含めた地域による包括的な仕組みの在り方、課題等について検討する。また、支援対象地域における地下水汚染の原因究明及び対策メニューの効果等の検証に資するためのシミュレーションモデル作成の検討を行う。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託・請負 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ 交付 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)			21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算	-	-	10	9	8	
		補正予算	-	-	0			
		繰越し等	-	-	0			
		計	-	-	10	9	8	
	執行額		-	-	10			
	執行率(%)		-	-	100.7%			
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	調査検討業務であり、数値で定量的に示せない		成果実績	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	調査検討業務であり、数値で定量的に示せない		活動実績	-	-	-	-	-
			(当初見込み)		(-)	(-)	(-)	
単位当たり コスト	- (円/)		算出根拠	制度構築のための調査検討業務であり、単位あたりのコスト算出は困難である。				
平成24・25年度 予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	環境保全調査費	9	8	制度のあり方の検討について、中身を精査し、検討に必要な人件費等を見直すことにより予算要求額を削減。				
計	9	8						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	硝酸性窒素による地下水汚染は、環境基準超過率が高く、人の健康への影響も懸念され、全国的に汚染事例が見られるため、国が優先的、また継続的に対策を行うための措置を講じていく必要がある。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	総合評価落札方式を採用し、競争性を確保した。
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	硝酸性窒素対策メニューの検討においては、これまでの関連業務の成果を活用することで、効率的に事業を実施した。また、支援対象地域の自治体と連携を図り、効果的に現場のニーズの汲み上げを行った。本業務で作成されたシミュレーションモデルは、今後、支援対象地域において対策の効果の検証に活用される。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名 ー	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	硝酸性窒素による地下水汚染は、環境基準超過率が高く、人の健康への影響も懸念されることから、今後も優先的、また継続的に対策を行うための措置を講じていく必要がある。平成23年度は、事業の費用対効果を高めるため、以下の点について改善を図った。 ・硝酸性窒素対策メニューの検討においては、これまでの関連業務の成果を活用することで、効率的に事業を実施した。 ・支援対象地域の自治体と連携を図ることによって、効果的に現場のニーズの汲み上げを行った。		
一部改善		効率的な事業実施に努め、必要最小限の概算要求額とすること。	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減		制度のあり方の検討について、中身を精査し、検討に必要な人件費等を削減することにより予算要求額を減額。	
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー		平成23年行政事業レビュー	23' 新-002

※平成23年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単位:
百万円)

費目・使途 (「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の 金額が支出されている者につい て記載する。費 目と使途の双方 で実情が分かる ように記載)	A.(株)環境情報コミュニケーションズ			E.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	人件費		7.0			
	諸謝金	検討会出席謝金	0.1			
	旅費	検討会出席旅費	1.1			
	借料	検討会会場借上料	0.1			
	印刷製本費	検討会資料、報告書	0.2			
	その他	消耗品、一般管理費、消費税	1.8			
	計		10	計		0
	B.			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	C.			G.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	D.			H.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)環境情報コミュニケーションズ	平成23年度流域視点からの硝酸性窒素対策業務	10	1	97.8
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					